

和7年度 学校関係者評価書 (川南町立多賀小学校)

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価		結果の考察・分析および改善策等	関係者評価		学校関係者評価委員の意見
		項目	総合		項目	総合	
I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進							
1	家庭教育支援の充実に努める。 ○ 家庭学習提出95% ○ 望ましい家庭学習の具体的姿の提示 ○ 保護者相談、個人面談の充実	3.1	3.2	○ 「家庭学習の手引き」等を活用し、年度当初家庭への啓発を行うことができた。児童の宿題や自学ノート等の良いものを教室や学年掲示板に貼ったり通信の載せたりするなどして、児童の意欲を向上させるなど意欲の向上を行っていききたい。 ● 高学年での取り組み状況がよくない傾向がある。課題に少しでも前向きに取り組めるように、工夫や意欲付け、見届け、など家庭との関係を図りながら提出できる児童を増やしたい。	3.4	3.4	・参観日がだんだん少なくなってきているなか、4月7月の先生との面談で学校での子どもの様子を知ることができる。 ・運営委員会に出席するたびに学級（先生方）の姿勢が学級経営にも表面化してきているように思います。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ○ 各行事等の参加率90%以上 ○ PTA執行部等との綿密な連携 ○ コミュニティ・スクール共同事業の推進	3.3		○ 多賀小ならではの行事を、地域や保護者の方の協力を得て、企画し実施することができた。PTA発案の企画（ステイックバルーン等）も始めることができた。	3.4		
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進							
1	読書活動を推進する。 ○ 全児童の目標設定と、その到達 ○ 読書好きの子どもを育む活動の推進（R7目標貸し出し冊数：13,000冊）	2.9	3.2	○ 読み聞かせグループ「アオバズク」の復活がよかった。学校司書、委員会児童、保護者や地域の方などの取り組みのおかげで本に親しむ習慣、本への興味・関心がたかまりつつある。 ● 保護者アンケートより、家庭での読書習慣にはまだ課題がある。学校でも、ファミリー読書週間の取組を継続するなど啓発を行いたい。	3.4	3.3	・ただ借りるだけで貸し出し冊数だけが増えているところがある気がする。 ・興味がある本が新刊として図書室に入ったときは嬉しそうに話したりしている。 ・ファミリー読書週間の前に各学年人気の本を紹介したり、親子で図書室から5冊程借りることができると、もっと充実したファミリー読書になるのでは、と思う。 ・読書は本人の自覚も必要ですが環境づくりも重要だと思います。特に家庭では家族の方々のそれぞれの立場で協力できること事に気づいていただくことも必要かと思えます。家庭教育の底力を見せていただけたらと思います。
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ○ 授業力向上につながる授業研究の究明 ○ 単元テスト平均得点率85%以上 ○ 新聞記事を活用した読解力育成	3.1		○ 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、全職員アウトプットを意識した授業改善に取組んでいる。 ● 新聞記事を活用した取組を増やしていきたい。 ● 単元テスト85%は届かないこともあった。授業の改善と習熟の確保で基礎・基本の力を付けさせたい。高学年では、授業の内容がわからない、授業が楽しくないと回答する児童も増えている。授業改善を図りたい。	3.1		・学力面は先生方の努力と工夫に頭の下がる思いです。今後も多賀小の子ども達の為にご指導をよろしくお願ひします。 ・子ども達個々の気づき、自覚それぞれの環境に影響される部分もあるのでは。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ○ ふるさと学習の充実 ○ 「いのちを大切に授業」の企画 ○ いじめの早期発見・早期対応 ○ SCの活用と教育相談の充実	3.3		○ それぞれの取組を実践し、人権感覚を育てる教育を行うことができた。教育相談を通して児童の悩みなどの早期発見に努めた。 ● あだ名で呼ぶなどを含め、人間関係のトラブルがある。その都度指導をしているが、その後の様子を見届けや根気強い指導が必要である。個を大切にし一人一人から話を聞く機会を確保するとともに、集会などを活用した全校での取組を行うなど積極的な生徒指導を今後もすすめてい。	3.3		・保護者は我が子からの話で学校の様子を判断することしかできないので、真実かどうかの見極めも難しかったり、なかなか気づけなかったりする部分もある。学校の先生方にいろいろ話したり、相談したりできる環境であることはすごくステキだと思います。 ・人権は子ども達だけでなく、私たち大人にとっても大切な課題だと思います。いじめの構図は、加害者と被害者だけの問題ではなく、観衆と傍観者も入っていることを各自に気づいていただけたらと思います。
4	特別支援教育を推進する。 ○ 個別の支援について共通理解・共通実践 ○ 特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の構築	3.2		○ 特別支援COを中心とした支援体制が構築されている。学級のみならず、学校全体で児童を見守り、授業の様子や頑張りを職員で共有しながら児童のよさをさらに伸ばしていきたい。 ● 低学年の段階で、気になる児童については、積極的に校外の機関も活用し適切な支援が行えるようにしたい。	3.7		・子どもたちの学習面・生活面・心の面など、いろんな面で支援していただける居場所や先生方がいて下さるというのは、とても心強くてありがたいです。 ・授業の中で、この項目をうまく活用・利用して子ども達の意識を自覚めさせてください。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ○ 地域行事と学校教育の関連した計画 ○ キャリア教育と関連付けた計画	3.4		○ 地域学校協働活動推進員の協力を得て、地域人材を活用した教育活動が展開できている。児童とともに行う熟議や浜うどん作り等新しい取組もでき、郷土、地域に関わることができている。 ● 地域の方々が指導に来てくださることに感謝の気持ちを持たせることもしっかりと指導していきたい。	3.1		・今年かんかん踊りを運動会に取り入れたのはよかったと思ったが、多賀小児童がかんかん踊りを踊れないというのが残念だった。 ・地域と郷土を大切にすればもっとできることがあったように感じました。
6	キャリア教育を推進する。 ○ キャリアパスポートを生かした教育の推進 ○ 「キャリアパスポート」による地域の行事等との関連付け	3.1		○ 各行事ごとに「キャリアパスポート」を活用して意欲の向上と振り返りを行った。キャリアパスポートと行事等を関連させることで、経験を通じた自己実現につながっている。	3.1		
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ○ 学校教育及び家庭学習におけるICT活用の推進 ○ 国際理解教育及び外国語教育の充実	3.2		○ タブレットの活用について職員研修を行った。 ● タブレットの持ち帰り学習が少なかった。さらに効果的な活用方法を共有するなどしてICT教育の推進を図りたい。	3.2		・タブレット持ち帰りが始まる学年の保護者にもタブレットの操作の仕方を見る機会があると思う。 ・私たち大人もこの項目は苦手な項目で、今の文化に応じた先生方の教育をよろしくお願ひします。先生方から子ども達へ、そして家庭へとよろしくお願ひします。
III 教育を支える体制や環境の整備・充実							
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ○ 教職員の意識改革の推進 ○ 内容に応じた校務分掌の工夫（全体・小集団・個人） ○ 校内外の研修への主体的参加	3.3	3.3	○ 対話を中心とし、OJTを意識した研修を実施することができた。少ない人数で、職員の入替わりも多く、前年度までの引継ぎが確実にスムーズに行えるような仕組みをさらに整えていきたい。日常的に相談しやすい体制ができており、協力しながら仕事を進めることができていく。 ● さらなる働き方改革に向けて積極的に校務のDXを進めたい。	3.2	3.3	・先生方の力に期待しております。お身体に気をつけられ、心身ともに健康で子どもたちの為にお力を下さいませ。
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ○ 緊急時・不意時における危機管理の徹底と常時危機意識の高揚 ○ 児童の危機意識を高める指導	3.2		○ 各種避難訓練や児童による安全点検などの取り組みで、児童自身に安全意識を高めることができた。 ● 下校時の危機管理について文書を配付し保護者への啓発は行えたものの災害時の備えについて家庭で話し合う機会は少ない実態がある。	3.4		・火事や地震の避難訓練、緊急児童引渡しの練習もしっかり行って頂けて、子どもたちの安心・安全をとっても考えて指導していただいていると思います。
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進							
1	学校体育の推進に努める。 ○ データを生かした指導の充実 ○ 個の力を伸ばす授業及び日常指導 ○ 体を動かすことが好きになる教育の推進 ○ 健康増進意識の高揚	3.3	3.3	○ 「ほけんだより」の活用や歯磨き大会への参加など保健指導の充実が図られている。 ○ 児童が体を動かして活動することを楽しみながら活動できている。 ● 体力の二極化が進んでいる。 ● 歯科治療率は現在82%。治療勧告を継続し、目標の90%に近づけていきたい。 ● 少々の体調不良で見学する児童が多いのが気になる。家庭と密に関係を図り学校全体で個の力を伸ばそうとがんばる雰囲気をつくりたい。	3.8	3.8	・保健室の先生のお便りなどから、歯や目の治療への呼びかけが何度も伝えられていて、 ・少ない人数でも、体育の授業やクラブで工夫して、いろんな競技を体験できている。体を動かす楽しさ、ゲームの面白さを実感しているようです。 ・以前（42年前位）多賀小が県の体育指定校に選ばれた時から、数年間は多賀小の子どもたちの頑張りが多く見られました。これは、県・町共に力を多賀に下され、グラウンド整備等も一流に仕上げられたように思います。この項目は、学校だけでなく、周囲の方々の子どもたちのかくれた能力を引き出してほしい。